

第29回日本視機能看護学会情報交換会セミナー交流会 報告書

テーマ：「続・ロービジョンケアにおける看護師の役割」

～現場で抱えるロービジョン者の問題～看護師ができるケアとは～

日時：2025年11月15日（土）14:00～15:30

講師：高橋広先生（北九州市福祉事業団 北九州市立総合療育センター眼科）

ファシリテーター：大音清香名誉理事長（日本視機能看護学会名誉理事長）

参加者：日本視機能看護学会会員（17名）

開催主旨

ロービジョンケアにおける看護師の役割は、会員アンケートで継続的に要望のあったテーマであった。参加者には、眼科勤務が浅い方や、必要性を感じながらも具体的な進め方に悩む方など、多様な背景がみられた。

まず第1部で高橋広先生より、看護師が理解すべきロービジョンケアの基本について講演いただいた。第2部では、患者との関わり方、心理的支援、障害受容に応じた対応、福祉資源へつなぐまでの連携など、現場の課題について情報交換を行った。

相談事項には高橋広先生より助言をいただき、大音清香名誉理事長がファシリテーターとして議論を進行した。参加者には、事前に相談内容を提出していただいた。

セミナーの概要

講演では、高橋広先生より、視覚障害者の生活支援とロービジョンケアの基本的な考え方が示された。視覚障害の捉え方（医学的・機能的・社会的側面）や、患者との対話を通じて生活上の困難を把握する重要性が解説され、リハビリテーションと看護の役割の違いが整理された。また、視力と日常生活の関連、ロービジョンリハビリの必要性、地域資源との連携の重要性について具体例を交えながら説明された。

意見交換では、各施設が実践しているロービジョンケアの取り組みや課題が幅広く共有された。埼玉医科大学病院からは歩行訓練士との連携や院内勉強会の継続、生活評価を用いた患者支援の取り組みが紹介された。神戸アイセンターや多根記念眼科病院からは、地域連携や外来面談でのスクリーニング活用の報告があり、医師・視能訓練士・看護師間の情報共有体制の課題も議論された。

短期入院患者への介入方法、障害受容の過程に合わせた支援、福祉課との連携の実際など、患者の生活面を踏まえた支援に関する具体的な相談も多く、参加者同士が各施設の工夫点を共有しながら意見交換を行った。今後に向けては、勉強会の開催、地域資源の把握、連携体制の構築など、ロービジョンケアを継続・発展させるための方向性が確認された。